

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470500513
法人名	気仙沼市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム 桑の実
所在地 (電話番号)	気仙沼市唐桑町只越349-19 (電 話) 0226-32-3822

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 1 月 23 日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 4 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	500 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82 歳	最低 78 歳	最高 87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小野医院 佐藤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの運営主体は社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会で、平成16年4月、旧唐桑町時代に開設されている。周りが海と山に囲まれた静かな環境で、広い敷地には福祉施設が点在し、保健福祉センターが避難所になっている。昨年6月にホーム主催の初めてのイベント「地域の人達との交流会」が開催された。地域の人達との交流を大切にし、毎年続けていくとのことだ。家族の方からは「困らせることが多いのにいつも笑顔で対応してくれるし、何かあった時にはまめに連絡してくれる」「サービスを手が届くように良くして貰っており、とても感謝している」とのことだ。『くらしの中に笑いあり のんびりゆったりみんなで そんな思いを大切に「我が家」づくりを目指します』が、着実に根付いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>1、「地域密着型サービスとしての理念」は、地域との関係性を強化した理念となっている。2、「地域との付き合い」は、ホーム主催の「地域の人達との交流会」が開催された。3、「運営推進会議を活かした取り組み」は、意見をサービスに活かされていない。4、「重度化や終末期に向けた方針の共有」は、方針が文書化されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表を項目ごとに分けて職員全員に割り振りし、それぞれに記入してもらい、それを全員で検討し、最後に管理者がまとめている。見出された課題は改善に向けて全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は開催回数が少なく、評価への取組状況について、事業所からの報告にとどまり、サービス向上に活かされていないので開催日を「地域の人達との交流会」や「福祉祭り」などイベントの開催日に合わせて実施し、テーマを事前に決めるなどして取り組みやすくし、サービスの向上に活かすようにしていただきたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来訪した時や家族交流、地域交流の時に意見や要望を聞くようにしている。また、事業所、市町村、国保連、第三者委員による受付窓口があり、外部に意見や苦情を表せる場があることを説明している。例えば「目隠しのために浴室やトイレ前についたてを立てて仕切る」などの要望は全員で検討し、実行されて入居者に喜ばれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入している。地域の行事やイベントには積極的に参加し、交流を図っている。昨年の6月に事業所主催の「地域の人達との交流会」を開催した。近所の人達や商店、近くの町民グラウンドを利用している少年野球、ゲートボール、グランドゴルフのメンバー、市内のグループホーム「ぼらん」など約60人ほどの人が集まり「餅つき」をしたり「打ちばやし」を披露したり楽しい交流会となった。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で考えた事業所独自のものであり、地域密着型サービスの意義を考え、地域との関係が強化されたものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲示しているほか、スタッフ会議等で話し合っている。入居者の方が安心して生活できるように、職員も笑顔でケアに努め、家庭での出来事をホームに持ち込まないようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域の行事やイベントには積極的に参加し、交流を図っている。昨年の6月に事業所主催の「地域の人達との交流会」を開催した。近所の人達や商店の人達、市内のグループホーム「ぼらん」など約60人ほどの人が集まり「餅つき」をしたり「打ちばやし」の披露をしたり楽しい交流会となった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。トイレや浴槽前のカーテンを防炎加工のものとしたり、転倒防止の手摺や居室内のテレビ等改善に向けた取り組みがされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催回数が少なく、サービスの実施、評価への取組状況について、事業所からの報告にとどまり、サービス向上に活かされてきている。	○	運営推進会議の開催日を「地域の人達との交流会」や「福祉祭り」などイベントの開催日に合わせて実施し、内容もテーマを事前に決めるなどして取り組みやすくし、サービスの向上に活かすようにしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とホームは連携が保たれている。福祉課が近くにあり、情報交換をしたり、身障者の施設の先生の所に2名の入居者が言語訓練に行っている。また、精神障害者訪問介護事業、軽度生活援助事業、家族介護者交流事業を受託している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪の時、入居者の暮らしぶりや健康状態などを話している。金銭管理は毎月1回書面で報告し、サインをもらっている。また、年4回「桑の実だより」を発行しホームの様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪の時や家族交流、地域交流の際意見や要望を聞くように努めている。また、事業所、市町村、国保連、第三者委員による受付窓口があり、外部に意見や苦情を表せる場があることを説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えている。異動があった場合は、入居者と一緒に送別会や歓迎会をするなどしてダメージを少なくする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を図るため採用時研修や経験に応じた研修を受講している。気仙沼・本吉地方介護サービス連絡協議会に加盟しており、グループホームの研修会や交流会に参加し、その内容はスタッフ会議で報告している。また資格取得に対する支援もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	気仙沼・本吉地方介護サービス連絡協議会に加盟しており、持ち回りで勉強会がある。ホーム相互のイベントや交流会にも参加し、活動を通してサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者が面会に行きホームの説明をしたり、事業所に来てもらいどういう所かよく知って納得してから入居してもらう努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な魚料理、山菜料理、はつとや梅干の作り方、風習等教えてもらったり、一緒に過ごす中でお互い様という気持ちや感謝するという関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から本人の思っていることを把握したり、家族に聞いたりしながら本人がしたいと思っていることや願いを聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き、関係者からの情報も含めてスタッフで話し合い個別に介護計画書を作成している。家族が来訪の時、話し合い同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回(月に各3名)見直しをしている。家族に説明し、同意をいただいている。状態に変化があるときは期間前でも、ないときでも月に1回は家族と連絡を取り、現状にあった介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に通院は家族に付き添ってもらっているが、家族の状況に合わせて柔軟に対応している。また、本人や家族の都合に合わせて外出、外泊の支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は全員かかりつけ医を受診している。必要に応じて歯科、眼科など本人の意向に沿って受診している。受診の際はバイタルチェック表や本人の健康状態を記録した書類を持参し、情報の共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が必要な時は、すぐに家族と連絡を取り、医師と話し合いをして、今後の対応を決めているが、重度化した場合の対応や看取りの支援などの方針はなく、早い段階での本人や家族、かかりつけ医との話し合いも行われていない。	○	重度化した場合や終末期を迎えた場合に対する方針を立て、それに基づいて本人や家族、かかりつけ医と早い段階から話し合い意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明するようにはしていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに尊重した呼び方で対応している。居室への出入りは本人の了解を得ている。個人情報の取り扱いもきちんとしている。食堂の向かいの浴室とトイレの前にはついたてがあり気兼ねなく利用できるよになっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事時間など本人のペースに合わせている。食事の後片付けは入居者が動くまで職員は動かないようにし、入居者のペースに合わせている。また、買い物に行った時も本人に自由に選んでもらっている。毎月ホームにパンを売りにくるが、その時も自分の好きなパンを選べるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人ひとりに合わせて食べ易く調理し、入居者と職員が同じテーブルで同じものを食べ、和やかな雰囲気できりげないサポートをしている。食事の後片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようになっていて、入居者の希望を聞いて個別に合った入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	舞踊、カラオケ、縫い物、押し花、読書など入居者一人ひとりの役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。また、支援の際には昔話をしながら職員も一緒に楽しんで喜びと張り合いのある毎日を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホーム周辺の散歩やドライブ、馴染みの店に買い物に出かけたり、毎月購入している本を発売日に買いに行ったり、一人ひとりの希望にそってできるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に鍵をかけることはない。職員は入居者一人ひとりの様子や行動を把握しており、外出願望のある入居者に対しては見守りや付き添いで対応している。近所の人達にも協力をお願いして連絡をもらったこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いで年2回の避難訓練や避難通路の確保、消火器の点検、各居室内の点検を受けている。注意点など指摘された事は改善に向けて取り組んでいる。地域の人々へ避難訓練への参加をお願いしているが、まだ協力を得られていない。また、新しい職員が夜間想定避難訓練を経験していない。	○	避難訓練に地域の人々の協力を得られる様に引き続き働きかけをお願いしたい。また、夜間想定避難訓練を早期に実施し、職員全員が経験できるようにしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量、排泄回数などのチェック表を作成している。また、体重チェックも週1回行っており、市の管理栄養士から指導、助言を受け、栄養バランスを考えた献立表を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて明るい食堂と12畳間の和室は適温管理や換気が行われ、臭気や空気のよどみがない。壁にはイベントの写真が貼られており、大きな窓は自然を眺めながら季節を感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの居室には半間の押入れがあり、自宅から持ってきたベッドやテレビ、壁には家族の写真や趣味で作った押し花などが貼られ居心地よく過ごせる居室となっている。		